



こんなことやっています。こんなところでがんばっています。

地域おこし協力隊通信



エグチベジブル
公式キャラクターの
「がじゃまるくん」

エグチベジブルの

選果施設を見学

1月30日、協力隊の山田周さんが企画する「もっと長島プロジェクト」が行われ、第4回はエグチベジブル（城川内）の協力のもと「長島の赤土ジャガイモはどうやって全国に出荷されるの？」をテーマに開催。町内の小学生とその保護者ら25人が参加しました。

指江庁舎で町のジャガイモの歴史などを事前学習した参加者らは、バスでエグチベジブルの馬鈴しょ選果施設に移動。施設内で行われる一連の工程を見て回りました。

カメラによる選別など、全自動化された高い技術の選果作業を見学し、施設の説明や以前行われていた出荷用の箱を手で組み立てる作業の体験を通じて、参加者らは出荷される赤土ジャガイモの舞台裏を学びました。

40年前、長島町でジャガイモの生産を広めたエグチベジブルの江口輝文代表は「鹿児島一であり、日本一のジャガイモの出荷施設を町内の子どもたちにもっと知ってほしい」と話しました。



夢に向かう中学生にエール

2月1日、平尾中学校（松久保謙太郎校長・35人）で行われた立志のついで、協力隊の江副佑輔さんと紘昭寺住職の福永剛彦さん（秋之牟礼）が記念講話を担当しました。江副さんは協力隊での活動をはじめ、キャリアを通して学んだことを2年生5人に話しました。「迷ったときは周りに相談。好きなことは自分の味方になる」とアドバイスを送りました。白濱凜さんは「保育士になるためにいつも笑顔でいることを心掛けた」と決意を新たにしました。

教育講演会で登壇

1月22日、協力隊の山田周さんが鷹巣小学校で開かれ

たPTA教育講演会に登壇しました。

青年海外協力隊として2年間、パラオ共和国の小学校で過ごしたエピソードや文化の違いを児童や保護者ら約80人に説明。「心の中の輝きを大事に育てて」と伝えました。

